



# 印旛沼で行われている漁業について

## ①印旛沼の漁業の歴史

かつては鮭、ギバチ、タナゴなど、在来種や利根川から遡上してきた種など、印旛沼には多種多様な魚介類が入り乱れていました。高度経済成長に対応するために印旛沼開発事業が行われ、印旛沼の魚種は様変わりしました。以前の印旛沼はその豊かさから漁で生計を立てる方々も多く、豊富な魚種に対応するため約25種類もの漁具、漁法が用いられていました。平成26年の調査では在来種25種、国内移入種\* 及び外来種15種が確認されています。

\* 国内には生息しているが、もともとその地域には生息しておらず、人為的に持ち込まれた種

## ②印旛沼で採れる魚

フナ、コイ、モツゴ等が主要種となります。

### モツゴ

漁獲量の多くを占めるモツゴ(クチボソ)は体長10cmほどのコイ科の淡水魚で、佃煮や甘露煮として食されています。



登米市HPより (写真提供: (財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

また近年は、ブルーギルやチャネルキャットフィッシュなどの**特定外来種**が在来種を捕食するなど問題となっています。



国立環境研究所HPより

## ③主な漁法

張網(袋状の網に誘導して漁獲)、ひき網(船から魚群に投網)、せん(竹筒を沈めて入り込んだうなぎを漁獲)等が用いられます。

近年はボサ網漁と呼ばれる、木の束や網を水中に沈め、魚がすみかにした頃に引き揚げる漁法が用いられています。



ボサ網漁 (水産庁HPより)

## ④印旛沼漁業を取り巻く現状

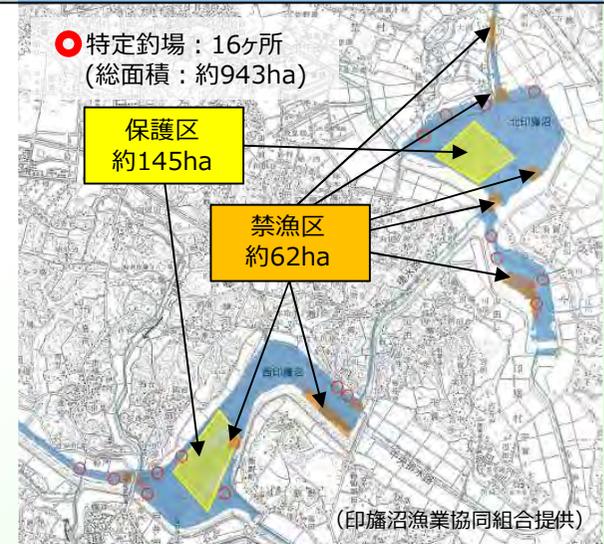
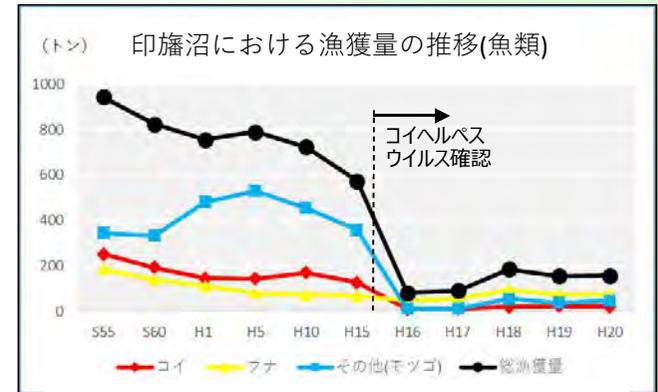
関東農政局千葉農林統計事務所  
「千葉県農林水産統計」より作成

### 漁獲量の推移

昭和56年・・・約1000 t  
平成15年・・・約600 t  
平成16年・・・約80 t

印旛沼の漁獲量は平成15年に確認されたコイヘルペスウイルスを起因とする消費者の淡水魚離れから急激に減少しました。

近年の漁獲量の統計は取られていませんが、漁業人口の減少なども相まって印旛沼の漁業は依然厳しい状況にあります。



## ⑤漁業資源の保護

印旛沼漁業協同組合では、漁業資源の保全対策として、**保護区**、**禁漁区**の設定、県や漁協による**放流活動**が行われています。

主な放流対象魚はウナギやフナ、ワカサギなどです。